



20年来グローバル コミュニケーションズ エキスパート。元JAXAエグゼクティブ アドバイザー(広報・国際担当)、国立大学法人山口大学客員教授(国際関係+コミュニケーション論)、評論家・オピニオンリーダー。東京生まれ、英国育ち。講演、テレビ、執筆、政府委員など、マルチに活躍する中で、IRと都市開発のコンサル会社代表も務める。
http://www.nishiuramidori.com

連載 第12回

“国際派大和撫子”が伝える宇宙の開発現場

にしうらみどりの

「宇宙の窓から」



CNES ルガル理事長と筆者

今号は年初、皆様の輝かしい2014年を祈念し、年明けの祝辞を申し上げます。
昨年10月末、来日中のフランス国立宇宙研究センター(CNES)理事長・ルガル博士から仏国の宇宙事情などについて伺いましたので紹介していきます。
その前に、筆者にとって生まれて初めての出来事を披露します。先月、なんと国際宇宙ステーション長期滞在中の若田光一船長から電話がありました！ サプライズだったので、尚更感激です。
若田さんは健康で充実した毎日を送っている、緊張と忙しさの中でもクルーメイトと楽しく過ごし、宇宙食は世界のものも含めて100種類以上。飽きないし美味しい、任務遂行を全力で頑張っているな

フランス国立宇宙研究センター

ど様々な話をしてくれました。

筆者からはNHKの宇宙生中継番組「彗星爆発 太陽系の謎」(JAXA協力)が素晴らしかったこと、日々の出来事など身の回りの事やいつもながらの勝手な夢や期待なども話しました。

さてお待ちかね、ルガル理事長ですが、仏国立科学研究所を経て政府産業局宇宙課でキャリアをスタートさせます。郵便・通信・宇宙大臣顧問としてCNES、欧州宇宙機関のプログラムを開発し、民間宇宙関連企業でもトップ経営者として功績を残した後、昨年4月にCNES理事長に就任。

「官僚だったのは、だいぶ前のこと。その後の技術開発計画や経営の経験も加わり、今日全て役に立っています」と静かな自信を覗かせます。CNESとJAXAはもともと技術協力し合えると思っっている、宇宙法、デブリや防衛問題などでも両国は良い協力関係にあるなど、マチュー・グリアル・駐日CNES事務所代表が見守る中、話は弾みました。



マセ駐日フランス大使と筆者

後日、クリスマスチャン・マセ駐日フランス大使からも、仏国の科学工学分野は筆者も大好きな美食、ワイン関係同様、世界に誇れる歴史を持つことを改めて解説して下さいました。ノーベル賞受賞者が56人という事実もさることながら、研究者の26%は女性とのこと。産業界でも、名だたる企業が多々ある中、宇宙航空分野は、エアバス、アストリウム、アリアンスペースは皆様にも馴染みです。

「日仏の学術界における交換プログラムや交流は大変活発ですし、CNESを通じて情報通信研究機構ともコラボしていますし、ご存知の通りJAXAとは10年に国際協定を更新していますから法的にも協力関係にあります。両国には多くの共通点も見られ、何より強い信頼で結ばれているのです」との言葉に、我が国への大きな期待が感じられました。